

この山を歩くと、わがやに残る往時の残り香に
ふれながら、次の時代の森の姿を
想わずにはいられない。

鈴木 森

ひだるにとり
重たかなくは
并当にほ一
と昔の人

林業は輸業

先人の植之下に
私たちが育てる孫に
資源を残し、そして孫の
ために植えていく。
過去があり、今があり、
未来へつなぐために
産業である。

車轆谷山風景林

この屋根にはフナが自生して、
いるが、近頃温暖化の影響で
分布の右様に傾いている。大木
が花れ、樹幹が腐って深刻な状
況。

昼分踪~鈴森

2号林道沿いに露出
している地層は何と
500万年前のものといわれ

セリ株も
アミ中、ている

石垣残る

森林軌道跡

インクライン路:

高山

中工佐町

山

山樣

げんない谷
山腹にはみごと
石積みによる崩壊の
復旧工事の跡が残り
緑の山を今も守っている

魚ヶ片

お留山への入山には
藩に届け出て
くお根を掘り取

一帯の国有林は、藩政
 時代はお留山として入山・作採
 を禁じられていた。
 天保・天明・安政と災害による飢饉が
 あり、人命をつなぐために、とんぐしを拾い
 出すの根を培った時代であった。

その昔、旅僧が日野川を渡り、この奥に万病に効く霊泉ありと予言したと伝わる。
終戦後、空襲被害が職員の保養施設として源泉近くに木造二階建ての温泉宿を建てていた。

この山中にあった。
1914年(大正3)営林署が造る全国初の
学校として家庭教育場開設。

このあたりの原生林を伐採した古老の藪によると、林内には海の岩石が点在し、まるで海の中で仕事をしているようであったという。銚子湾南側斜面は太平洋の海底が地震のたびに地上に現れた地層であるといわれてい

参考文献
鈴が森(松葉川山国有林)の巨樹巨木

杖立

往景道

仁井田郷と津
つなく重要な生
村立～森々内

志和城主が伊子まで
行ったものこの道。
(戦国時代)

松葉川林道

產家跡

しだれ桜(エドヒガシ)

同の山神
(安産の神様)

日野地の

大ケヤキ

寧寧

野地

下栗のお薬師様は
午後になると志和の
お薬師様のもとへ
行って留守になるので
午前中に参拝するとい

今も昔も山仕事は危険
となりあわせである。
森々内土場の片すみ
この山で亡くなった者の
為霊碑があり毎月
1日にサカキと洗ミを
供えて祀っている

命とあけるトビ「先か」
人の指の脂ですバツ
抜けることもあつた
トビ ツルは他人には
絶対にふれさせな

川面に映る山の風景。
色や姿を四季折々に変え
ヒノキの山は幾重にも広がる。
わずかな半世紀ほどの昔、この
大自然の中で山に働く人々の

は植付後
、真夏に行

広大な人工林団地

かつて土佐藩のお留山と呼ばれていたヤブモミツギなどの優良天然林が伐採され、さらに時代を重ねながらヒノキ、スギの人工林団地となっている。

春分峠より一円に広がる人工林の森は、先人が汗水を流し重力に逆いながら緑でうめつくしてきた大偉業である。この緑の資源を育て守り、後世に引き継いでゆくことが、広大な人工林は四国屈指の美林となり宝の山となる。